

フィールドワーク



全プログラムの集大成として、各ホームルームメンバー全員で協力して、野外にある全7箇所の関所を回り、ゴールを目指します。
「気づき、考え、実行する」力をフル活用し、全員が無事クリアすることができました。



山田事務局長から修了証が授与されました。

「なすことをもって学ぶ」そんなことばが浮かんだトレーニング・センター。泊を伴わない2日間のトレセンは、とても充実したものでした。小・中・高校生の縦割りのよさが活動の中に広がり、それぞれがリーダーになり、自由に意見を言えたのはすばらしいです。

赤十字の基礎知識として、赤十字の誕生、赤十字の七原則、血液事業についても学びました。初めて聞く話は少し難しかったかもしれませんが。私も繰り返し学びを深めたいと思っています。健康・安全プログラムでは、指導者に的確な助言をもらいながら、心肺蘇生やAEDを使っの応急手当に真剣に取り組みました。励ましの声をかけ合い、練習を重ねるにつれて上手になり頼もしかったです。学校・社会生活の中で緊急時にきっと生かせるでしょう。

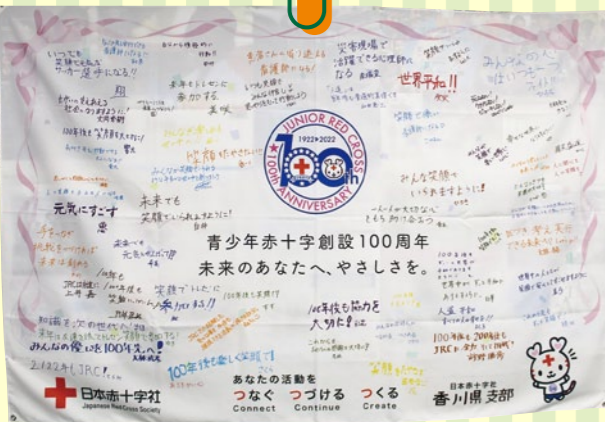
2日目のフィールドワークは、これまで学習したことの実践の場です。7つの関所を各々がリーダーシップを発揮し『気づき、考え、実行する』ものだったと思います。トレセンの最後に渡される賞状は、先生方の愛情が込められた文章で、受け取った子どもたちが何度も読み返していたのが微笑ましかったです。自校でのJRC活動の広がりを期待しています。

今年は賛助奉仕団員が延べ7名参加しました。青少年赤十字指導者協議会の先生方、各奉仕団、日赤香川県支部の方々と共に1グループを担当させていただきました。コロナ禍、熱中症対策にも十分配慮したトレセン。どの参加者もやり遂げた自信、満足感があふれていました。計画・運営・指導して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

最後に、青少年赤十字(JRC)創設100周年を記念して、大きな旗に心を込めて寄せ書きをしたこと、創作ダンスを踊ったことが印象に残っています。来年は2泊3日のトレセンができ、また会えることを楽しみにしています。

赤松 よし子

100周年記念の寄せ書きを作りました!



100周年記念トレセン!

令和4年8月6日(土)・7日(日)、五色台少年自然センターにて青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(以下、トレセン)を開催しました。

依然として収束の兆しが見えないコロナ禍への対策として、今年も2日間の日帰りでの開催となりましたが、青少年赤十字創設100周年の記念すべきトレセンとなり、県内の小学生、中学生、高校生30人が参加しました。

トレセンの目的である「気づき、考え、実行する」力を持ったリーダーを育てるためのプログラムはもちろんのこと、100周年ならではの内容も盛り込みながら、次の世代へ青少年赤十字を「つなぐ、つづける、つくる」ことができるトレセンとなりました。

次の100年後にもきっとトレセンが開催され続けていることでしょう。



防災教育
プログラム

救援物資を運べ!

ビー玉やゼムクリップを救援物資に見立て、割り箸や磁石等限られた道具を使って、離れた避難所に運ぶゲームです。
大事なことは、上手に運ぶことではなく、いかに**コミュニケーション**をとってどうすれば上手く物資を運べるか**話し合う**こと。

様々な意見がHRごとで飛び交っていました。



よし!
やってみるぞ!

実行する!



上手く運べないなあ...



気づき



考え

こうすればいいんじゃないかな!



Dホームルーム



Eホームルーム



Fホームルーム

心肺蘇生法と搬送

健康・安全
プログラム

万一の際に適切な行動がとれるように、胸骨圧迫とAEDの使い方の練習をしました。

いざというときは勇気を持って助けましょう!

また、身近なものを使った搬送方法についても勉強しました。毛布は担架として使うこともできるんです!



二人で協力することが大切です。



先生も挑戦!

端っこを丸めて...



みんなで持ち上げます。

ホームルーム (HR) とは?

学校や学年の枠を超えた縦割り構成のグループのことです。
トレセンでは、ホームルーム単位で活動を行います。メンバーそれぞれが積極的な発言をしていくことが大切です!



Aホームルーム



Bホームルーム



Cホームルーム